

安養プールを訪ねてみた

わたしが今住んでいる家には、戦前仁川に住んでいた祖父から曾祖母に届いた手紙が何通も残っており、当時の生活を知る貴重なものとなっている。また写真も数枚あり、その中には「17,4,29, 冠岳山登山記念安養プールニテ」と日付と場所が入ったものがあった。

わたしは以前韓国に住んでいたので写真に書かれてある冠岳山がどこにあるのかはすぐにわかった。しかも韓国にいる時に冠岳山にも登ったこともあるのだ。このときはソウル市側から登って下りたので安養市側には行ったことがない。写真を撮った場所にずっと前から行きたいと思っていたが、なかなか実現できずにいた。安養芸術公園へは地下鉄1号線冠岳駅から歩いて行ける。また安養駅からはバスも出ている。だが、当時祖父は仁川から安養プールへどうやって行ったのか、それはわからないままである。現在安養プールはすでになり安養芸術公園へと様相を変えているが、そこを流れる川の中に安養プールと書かれた当時の石碑が残っているとのことだ。

9月29日夜に韓国に到着、その日はアンサン（京畿道安山市）にいる友だちを訪ねた。30日朝アンサン駅から安養芸術公園へ向かった。安養プールは1932（昭和7）年に溪谷を利用して川に作った自然の中にあるプールだ。終戦後、日本語で書かれた石碑はコンクリートで覆い隠された。プールは戦後も多くの韓国人で賑わいを見せていたが、のちに大洪水に見舞われ、プールの廃止が決まった。近年になって石碑を覆っていたコンクリートが剥げ、隠されていた日本語が浮かびあがってきたという。





4月29日は天長節という祝日、祖父は朝鮮機械製作所の同僚たちといっしょに冠岳山に出かけたのだろう。うしろに立っている3人、チマチョゴリの右側の女性は隣にいる白い洋服の女性と腕を組んでいる。双眼鏡らしいものを首にかけている男性もいる。いろんなことがこの写真からわかる。ネクタイを締めている男性もいることから登山というよりハイキングだったかもしれない。当然この写真が撮られた場所は特定できなかったが、安養プールから冠岳山へ通じる道から山を見ると、生えている樹木は今も当時のままであった。そこは右の写真のように冠岳山をトレッキングするコースとなっている。

この写真は文字の様子から記念写真として撮られたものだと思う。おそらく同じ写真を持っている人もいるだろう。祖父以外には誰が写っているか不明だが、一人でも人物が特定できればうれしい。また、仁川から安養プールまでどういう交通手段で行ったのか、それもわかればなおうれしい。